

えりぐちまさし 江里口匡史さんが引退

世界を駆け抜けた 菊池のスプリンター

陸上短距離で活躍した江里口匡史さん(巨出身・大阪ガス所属)が、
えがお健康スタジアムで7月7日に行われた国体の県最終予選で引退しました。
菊池から世界へ羽ばたいた軌跡を振り返ります。

100m自己ベスト

10.07

日本歴代7位(当時歴代4位)

昭和63年12月17日生まれ(29歳)
菊池市巨出身
隈府小―菊池南中―鹿本高―早稲田大―大阪ガス

【主な成績】

- 平成18年 兵庫国体100m(少年男子A) 1位
19年 日本学生選手権100m 1位
20年 日本学生選手権100m 1位
21年 日本選手権100m 1位
(準決勝10秒07 自己記録)
ユニバーシアード100m 3位
世界選手権100m 2次予選1組8位
4×100mリレー 4位(1走)
日本学生選手権100m 1位
22年 日本選手権100m 1位
日本学生選手権100m 1位
(同種目の4連覇は77年ぶり2人目)
23年 日本選手権100m 1位
アジア選手権100m 2位
4×100mリレー 1位(2走)
世界選手権4×100mリレー 予選2組4位(2走)
山口国体100m 1位
24年 日本選手権100m 1位(4連覇)
ロンドン五輪100m 予選2組6着
4×100mリレー 4位(2走)
岐阜国体100m 1位

ラストランは故郷で

「匡史^{まさし}ありがとう」「今までお疲れさま」。観客席から声援が飛び交う中、必死の形相で走った最後の100m。陸上人生のラストランは、10秒82で2着でした。「けがで苦しい時期が続いたけれど、今日はとても楽しかった。最後は幸せな気持ちで走れました」と爽やかな笑顔で振り返りました。

100mの自己記録は日本歴代7位の10秒07。日本学生選手権で4連覇、日本選手権も4連覇と日本陸上界のトップを走り続け、平成24年にはロンドン五輪に出場。輝かしい実績を残しました。

菊池で培った世界への土壌

匡史さんは隈府小4年の時、兄の背中を追って陸上部へ。父の善久^{よしひさ}さんは「市内にもっと速い子がいたので、国の代表になるとは思いもしなかった」と目を細めます。菊池南中3年で菊池郡市の記録を樹立。鹿本高校に進学し、3年生で国体の少年男子A100mを制しました。「1年の時はインターハイに出場できず、一緒にテレビ

を見ながら「1度でも出れたらいいね」と話していたんです。そして、3年で全国優勝してしまっ

て」と母の博子^{ひろこ}さんは明かします。高校陸上部の顧問だった戸上信二郎^{のぶじろう}さんは「陸上も勉強も頑張る子だった。練習メニューの効果を理解するまで何度も質問してくるほど熱心。1シーズンごとに飛躍的に伸びた」と語ります。博子さんは、不調の時も影から支え続けました。「匡史は弱い部分を見せないんです。だから、落ち込んでるように見えたら、こっそり好きなご飯を1週間ぐらい続けて作ってあげました」

早稲田大学、大阪ガスと歩み、オリンピックにも出場。しかし、近年は脚の故障に苦しみました。今後は社業に専念する予定。匡史さんは「生まれ育った菊池には特別な思い入れがあります。地元に関か貢献できたら」と話しました。



江里口匡史さんの両親
江里口善久^{よしひさ}さん(巨)Ⓔ
博子^{ひろこ}さん(巨)Ⓕ



早稲田大学競争部提供



1 引退レースの観客席には知人も駆けつけた 2 菊池ひかり保育園時代の運動会(写真Ⓔ) 3 憧れの末續慎吾選手Ⓔとリレーに臨んだ兵庫国体(Ⓔから2人目) 4 断トツでゴールした中学時代の大会 5 早稲田大学時代 6 鹿本高校のユニホーム姿で 7 引退前日に母校の菊池南中を訪問

